山口大学生協の環境配慮推進活動について

山口大学生活協同組合　店長　吉田　秀文

１．はじめに

私たちは、環境保全活動が大学生協の事業と組織活動の基礎的取り組みの重要な課題の一つと認識し、事業と商品活動（サービスを含む）における環境負荷低減に責任を果たす立場から、組合員とともに様々な活動に取り組んでいます。

具体的には、①提供する商品（サービス）そのものを環境にやさしい商品群とする、②包装用品などの資材をリサイクルし環境にやさしい取り組みとする、③廃棄物の量を減らし環境に負荷をかけない、④これらの取り組みを組合員の目に見える形で行い組合員（山大生）に環境について考えるきっかけを与える。など、身近なところから、組合員とともに考え行動していきます。

２．山口大学生協における環境配慮推進活動具体例

①環境負荷の少ない商品提供

山口大学生協では、吉田キャンパス第１食堂「ボーノ」、工学部食堂、医学部食堂の３店舗において地産地消の取り組みを進めています。２００５年の１２月にお米の試食会を行い、これまでの北海道産米「きらら」に代わって県内産米「晴るる」の導入を決定しました。仕入コストは上がりますが、物流ルート短縮による化石燃料の消費削減や有害ガスの排出抑制に貢献しています。また、後述する組合員参加型の「食」を考える取り組みも県内産米使用でしか実現できないものでした。今後も地域の食材使用の可能性を追求していきたいと考えています。

吉田キャンパス『ボーノ』で提供

CO-OP 文具カタログ
２００６

もう一つは、大学生協の推進する「コープ文具」です。CO-OP 文具は大学教育と専門教育に貢献するためのツールとして開発・ラインアップされています。開発・リニューアルにあたっては、実際に使用されている研究室や組合員の声が活かされています。業界に先駆けて開発された商品や、大学生協ならではの商品が数多くあります。また、環境配慮から再生紙や再生樹脂を使用した商品の導入も早くから行ってきました。現在「コープ文具カタログ」は毎年発行されていますが、約８割以上の商品が環境配慮商品になっています。「情報収集から発表まで」を支える文具として、これからも大学の教育・研究に貢献し続けます。

グリーン購入法対応文具

グリーン購入法対応文具

②山口大学生協のリサイクル活動

まず最初にご紹介するのは JUON（樹恩）NETWORK の割り箸です。割り箸と聞いて環境破壊を連想する方も多いかもしれませんが、樹恩の割り箸は間伐材を使用しています。間伐とは、森の適切な保全のために密に植えられた木を間引いて、森林の中に光が差し込み健全に育つようにするための作業です。日本の割り箸が 1 膳当たり 2.08 円するのに対し、中国産の割り箸は 1 膳約 0.5～0.8 円ですので、日本は多くを輸入に依存してしまいがちですが、樹恩の割り箸は自国の森林を守り、環境にもやさしいように間伐材を使用しています。コストがかかり若干折れ易いと言う欠点もありますが山口大学生協では、「ボーノ」、工学部、医学部、全店舗で樹恩の割り箸を使用し、回収後は製紙会社へ送達しリサイクル活動を行っています。

各店舗の返却口付近で回収し、乾燥の後、箱詰めして宅急便で送ります。

幕内タイプ

各店「で回「

次にリリパックのお弁当箱です。食べ終わった後の容器から組合員自身がフィルムをはがし、専用の回収箱で回収いたします。フィルムをはがしてリサイクルするので、組合員の意識向上にもつながり、洗浄用のすすぎも不要なので水質汚染も減り、２重３重に環境に配慮した取組みとなっています。開発のヒントになったのは、阪神淡路大震災時、水不足のなかで、食器を洗うこともままならない被災者が苦肉の策として皿をラップで覆って使っていたことだそうです。リリパックもボーノ、工学部、医学部、生協食堂全店での取り組みとなっています。今後は回収率をどこまで高めていけるかが取り組みのポイントとなります。

丼タイプ

③廃棄物の量を減らし、環境負荷を減らす取り組み。

吉田キャンパス第１食堂「ボーノ」では、グリストラップ浄化装置を導入し、排水の浄化を図っています。酵素の水で油分やヘドロを分解するので、人体にも影響は無く安心です。これもコストはかかりますが、排水をよりきれいに排出するため続けています。

工学部ショップでは、エコファイターズと協力して、レジ袋削減のためエコバックの製作に取り組みました。生協ショップにて格安販売！現在は、より環境に対する意識を高めてもらうために、レジ袋の有料化を検討。アンケートを実施しました。結果は、反対６２に対して賛成は４１。反対のほうが多かったため、今後は試験的に有料化のテストをします。

農家の方の苦労などをお聞きしました。

④組合員とともに環境について考える

最初に紹介した県産米「晴るる」の導入ですが、切り替えの条件として産地交流を卸業者にお願いしました。山大生が「自分たちが食堂で食べている」お米の産地へ行って、農家の方と交流する。食べ物を身近に感じ、食べ物を大切にする心と「食」への興味を持ってもらおうという取り組みです。ＪＡの協力の下、６月に田植え、１０月に稲刈りを企画し、多くの参加で盛況でした。実際に稲刈り時に自分たちが刈り取ったお米がボーノに登場しました。稲刈りに行っていない学生たちもボーノのお米を身近に感じられたのではないでしょうか。

田植えの様子

リリパック，樹恩の割り箸ともに組合員の目に見える形で、紹介･回収しています。生協の食堂や購買部を利用することで、「ああ今私は環境に貢献しているのだなあ」と少しでも考えられるようなきっかけを与えていきたいと考えています。今後は回収率やどの程度リサイクルセンターに送っているのか、報告も行いたいと思います。リリパック・樹恩割り箸の取り組みが日常の風景化しないよう、宣伝していきます。

３．組合員と進める環境の取り組み

環境問題を考えるにあたっての私たち大学生協の強みは「利用者である組合員が身近にいること」と「日常的に利用するお店があること」です。身近な組合員に声をかけて人を組織することも可能ですし、お店の中で組合員の目に付くように宣伝を行うこともできます。これらのことを活かして、環境にやさしい大学生を社会に送り出していきたいと考えています。右の写真は、トナーカートリッジのリサイクルの取り組みです。平川キャンパス大学会館ショップ他、メディアショップ、工学部ショップ、医学部ショ

ップでも回収しております。研究室等で出ました不要なカートリッジは是非ショップまでお持ちください。